

元 氣 の 源 通 信

人事労務・社会保険等手続き・助成金・給与計算

特定社会保険労務士・経営士 深川順次

福岡市東区香椎4-11-17-201

TEL 092-661-0552 FAX 092-661-0582

(今月の言葉)

- ① 資本主義を越えて
- ② 分かち合いの社会をつくる
- ③ 働きがいのある職場をつくる

2009年新年号 (第78号)

チェンジ！ オバマ大統領とともにそう叫びたい気持ちです。世界的な規模で未曾有の経済危機に突入しています。日本の場合、政治の閉塞感がそれに輪をかけています。

危機の根源は、投機が投機を生み出していくというアメリカ型金融バブルの崩壊です。またそれを押し進めた新自由主義と市場原理主義の破綻です。

実体経済も大きなダメージを受けています。輸出関連産業の自動車、半導体等は3~4割減、高額商品は売れずさらに生活必需品にまで消費不況の波がおしよせてきています。「派遣切り」が大問題となり雇用問題が大きな社会問題となっています。

こんな社会に誰がした！と嘆いていても仕方ありません。新年を迎え身も心も新たにしたいと思います。昨年を一字で表せば「変」でした。今年はまさに「変革」の年にしたいと思います。チェンジ！です。

チ ェ ン ジ ！

資本主義を越えて

マネジメントの生みの親であるドラッカーは「資本主義を越えて」の中で次のように述べています。「私はアメリカの経営者に対し、所得格差を20倍以上にするなど何度も言ってきた」「経営陣が大金を懐に入れつつ大量のレイオフを行うことは、社会的にも道義的にも許されない」「金銭などという近視眼的な考えが、生活と人生の全局面を支配することがあってはならない」

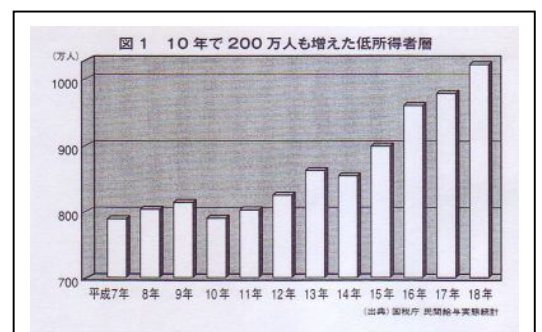
だがアメリカの経営者たちはこのドラッカーの忠告をことごとく破ってきました。

では日本はどうか。

日本もまたこの10数年アメリカ的な道をひた走ってきました。バブルの崩壊（その決定的要因の一つがアメリカから仕掛けられた争闘戦への敗北です。アメリカは91年ソ連邦の崩壊後、それまでの対ソ戦略から対日戦略に基軸を移し、全力で日本の経済力のそぎ落としを行ってきました）後、自信をなくした日本の指導部は唯諾々とアメリカにつき従ってきたといっても過言ではありません。それが経済的には規制緩和であり、政治的にはイラク侵攻への支持です。ではどのような社会が現出したのか。アメリカと同じような格差社会です。アメリカと同じような犯罪社会です。わずか10年の間に年収200万円に満たない貧困層が200万人も増えて1000万人の大台に達しています。それは非正規雇用の拡大と期を一にしています。貧困率も「先進国」では、アメリカにつぐ第2の貧困大国です。

アメリカや日本などにおいて、あすの糧にも困る貧困層と金余りの富裕層が現出し、余ったお金が金融機関や証券会社、投資家に集まり、それが金が金を生み出すという虚業を肥大化させ、そしてついにバブルがはじけました。「資本主義の自壊」(中谷巖)「資本主義大崩壊」(船井幸雄)今や多くの有識者の間で語られていることです。とくに中谷氏は「アメリカ流構造改革の急先鋒」として政府内でも活動した人です。その人が今や「懺悔の書」として、『資本主義はなぜ自壊したのか』を書くに至っています。

文字通り資本主義的価値観を含めた大転換が問われている時代に入ったのではないのでしょうか。



分かち合いの社会をつくる

前記した『資本主義はなぜ自壊したのか』の中で、中谷氏は「人間は資本主義によって、本当に幸福になれるのだろうか」という疑問を提出しています。その疑問は、資本主義を導入していないキューバやブータンを訪れることによって強くなったと言います。

キューバは、今でもアメリカからテロ支援国家に指定され、経済封鎖を受けている国です。キューバは確かに経済指標から見れば「貧しい国」です。しかし、教育も医療も全額無料です。アメリカでは「医療難民」が急増して社会問題となっていますが、キューバでは全ての人々が高度な医療サービスを受けることができます。また誰でも大学までの教育を受けることができます。さらにキューバは国を挙げて有機農業（化学肥料や農薬に頼らない自然と共存する農業）立国を進めています。

なぜそれが実現できているのか？それはキューバが分かち合いの社会だからです。共生の社会だからです。「キューバの人々は心が荒んでいない。それは日本やアメリカに比して社会とのつながり、人と人との信頼関係があるからだ」（中谷巖）「資本主義崩壊後の社会の理想像はキューバにある」（船井幸雄）とまで言っています。

今雇用問題が大きな社会問題となっています。その解決の一助として見直されているのがワークシェアリングです。仕事の分かち合いです。また解決の一助として就農が取り上げられています。今こそ農業を見直す最大のチャンスだと思います。若者に夢を与えることができるような有機農業立国を目指すチャンスです。雇用問題を解決し農産物の自給率を上げ、安心安全な食料も提供することができます。（定額給付金などというくだらないバラまきを止めて、こういうことに投資してもらいたいものです）

働きがいのある職場をつくる

構造改革と同時に職場に導入されたのが成果主義でした。まさに職場内にも徹底した競争原理を導入するものでした。それは働きがいのある職場を生み出したのか。全く否です。

あるリフォーム会社A社の教訓です。A社では営業職社員に粗利 200 万円の契約を取った場合その20%にあたる 40 万円を歩合給として支給するという成果主義を導入しました。当然営業職は目の色を変えたといいます。導入して1年間で売上は15~20%拡大し、給料 20 万円の社員が 70 万円も 80 万円も受け取るケースも生じました。だがそれと平行して職場は荒んでいきました。たとえば、営業ノウハウや商談の詳細情報を同僚や社長にも隠す。儲からない仕事は露骨に嫌がり、商品の勧め方もお客様の立場ではなくより粗利を稼げるほうを勧めるなどです。しかも給与の配分をめぐる営業と他の部門の対立も生じたといいます。

働きがいのある職場とは、A社の社長も反省して言っていますが

- ① **結果よりもプロセスに関心を持つ職場**
 - ・社員の成長のプロセスにこそ関心を持つこと
 - ・成長を「目に見える形」でわかるようにする「成長シート」の活用が大切
 - ② **ノウハウやコツを共有できる職場**
 - ・うまくいったノウハウやコツを積極的に共有し、全員で目標を達成するという企業風土があること
 - ③ **経営者と従業員、従業員同士に信頼関係がある職場**
 - ・そのためには就業規則等に基づいたルールが明確であること
 - ・感謝する企業風土があること
 - ・コミュニケーションが活発で風通しがよいこと
 - ④ **納得性のある給与制度をもつ職場**
 - ・なによりも結婚し子供を育てることができる給与であること
 - ・社員の成長を積極的に評価する給与制度であること
 - ・すぐさまわかりやすい形で報いるインセンティブ制度があること
- などです。

2009 年は「分かち合い」「働きがいもてる」共生社会へとチェンジする年ではないでしょうか。

参考文献：『ネクスト・ソサエティ』（ドラッカー）『資本主義はなぜ自壊したのか』（中谷巖）
『2009 年資本主義大崩壊』（船井幸雄）